

平成30年12月7日  
国立研究開発法人  
日本原子力研究開発機構  
敦賀事業本部

「もんじゅ」燃料体取出し作業の状況について（続報）

12月4日（火）、55体目の燃料体取出し作業を実施中、燃料出入機本体Bにより空の缶詰缶を缶詰設備に移送し、缶詰缶をはなした際、18時8分頃に「本体Bグリッパつかみ・はなし異常」警報が発報しました。その後、手順に従い、燃料出入機本体Bグリッパの動作確認を行ったところ、再度、同様の警報が発報しました。

そのため、原因調査を行うこととしたため、燃料体取出し作業を中断しました。

12月4日から6日にかけてグリッパ本体とグリッパ駆動装置の外観点検および動作確認を行った結果、設備に異常はなく、正常に動作することを確認しました。

原因調査として、これまでのグリッパBの昇降データを分析した結果、駆動装置に生じる負荷（トルク値）の変動幅が大きいことを確認しました。このため警報が発報した原因は、駆動装置内の軸受のシール部などに生じる摩擦抵抗の変動を検知したものと推定しました。

今後は、トルク値を監視しながら作業を進め、その上昇を確認した場合には、グリッパの動作およびトルク値の確認を実施し、設備の異常がないことを確認した上で作業を行うことにしました。

本日、中断していた55体目の燃料体の処理作業を再開しています。

以上